

富良野市地域ケア推進会議（令和4年度 第2回）議事録

令和5年2月14日（火）午後4時00分～午後4時50分
富良野市総合保健センター2階 研修室

1. 開 会（16時00分）

2. 部長挨拶

3. 会長挨拶

【小山内 会長】

皆様、本日はお忙しい中お集まりいただき大変ありがとうございます。

新型コロナウイルスの感染者数もようやく落ち着いてきており、まだ正式決定ではないものの、国もゴールデンウィーク明けには感染症法上の分類を5類に見直す動きも出ています。コロナに対する恐怖感も大分薄れてきていますが、ここで再度感染が拡大しないよう十分に気を使いながら年度末を過ごしていただければと思っております。

本日の推進会議は第9期富良野市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定の基礎となる調査内容についての検討を行いたいと思いますので、皆様方のご意見よろしくお願いいたします。

4. 議 題

【小山内 会長】

それではお手元の次第に沿って進行させていただきたいと思います。

「（1）第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定にかかる基礎調査について」事務局より説明をお願いいたします。

【高橋 介護保険係長】

本日配布資料をご覧ください。

議題の「（1）第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定にかかる基礎調査について」は①～③について一括でご説明いたします。

《説明要旨》

- ・計画は3年ごとに見直しを行っており、富良野市においては令和6年度から令和8年度までが第9期計画の期間となり、策定に向けた準備を行っている
- ・ニーズ調査は市内の65歳以上の一般高齢者および在宅生活をしている要支援認定者から無作為で1,500件抽出して4月下旬から5月上旬ごろに発送し、950件の回収を見込んでいる
- ・在宅介護実態調査は、在宅生活を送っている要支援2から要介護5のうち、令和2年4月以降に更新、変更申請を行った方から無作為で300件を抽出して4月下旬から5月上旬に発送し、150件の回収を見込んでいる
- ・ニーズ調査は厚労省が全国統一調査として示した項目（問8まで）と富良野市の独自項目（問9以降）の調査を実施する
- ・在宅介護実態調査は厚労省が全国統一調査として示した項目の調査を実施する

【小山内 会長】

①～③の議題について事務局から一括して説明がありましたが、まず基礎調査の概要についてご質問、ご意見等ございませんか。

【小山内 会長】

- ・富良野市における要介護（支援）認定を受けている被保険者数はどのくらいなのか

【高橋 介護保険係長】

- ・要支援者については約 500 名、要介護者は約 950 名、あわせて 1,450 名程度の方が認定を受けている状況となっております

【小玉 委員】

- ・ニーズ調査について、問9以降の富良野独自調査は前回から変更された項目はあるか

【高橋 介護保険係長】

- ・「問14 ご自身の聞こえについて」を新たに追加しています
- ・それ以外の項目については第8期の項目を踏襲し、若干の文言修正と項目の順番の入れ替えを行っております。

【小山内 会長】

基礎調査の概要について、他にご意見、ご質問が無いようですので、調査の概要については事務局案で問題ないということにいたします。

つづいてニーズ調査について、先ほど事務局より問8までは国が示した統一項目、問9以降が富良野市独自の項目であり、問14が今回の調査で新たに追加した項目との説明がありましたが、この調査について、特に問9以降の項目について、質問項目の追加のご意見等ございませんか。

【草野 委員】

- ・高齢者のスマートフォンやタブレット端末などの通信機器保有率は問15で把握できるということで良いか

【高橋 介護保険係長】

- ・ご指摘のとおり、市内の高齢者がどの程度スマホ等を所有しているのか問15で把握し、市で実施している緊急通報システムなどの高齢者福祉サービスのあり方について検討する際の材料としたいと考えております。

【草野 委員】

- ・健康マイレージ事業について、昨年度はシールを集めてポイントを貯める方式だったが、今年度はスマホを使用する形に変更となったが、以前、介護予防教室に参加した際に参加者から「スマホを使うようになってややこしくなった」という話をよく聞く
- ・健康マイレージ事業にスマホを使用するようになってどう感じたか等の満足度調査をアンケートの質問項目に追加してはどうか
- ・これからの時代、スマホなどの機器を活用していくことは必要だとは思いますが、今回の事業でスマホを使用してみて実際にどうだったかというフィードバックを取ることで、よりよい事業設計ができるのではないか
- ・重度障がいを持つ方への介護に関するグループワークに参加した際、介護者が集まる会が中々ないという話になった。そういった会のニーズがあると感じているが、そういっ

た会への参加意向を聞くことはできないか

- ・無作為抽出なので難しいと思うが、男性の方は中々そういった会に参加したがる傾向があるので、同性のみの会なら参加できるのか等、なぜ参加しにくいのか聞き取る項目があるとよいと思う

【柿本 保健福祉部長】

- ・健康マイレージ事業については20歳から高齢者まで様々な方々が参加しており、スマホを使えない高齢者の方もいると想定して万歩計も相当数用意していたのですが、万歩計を買った方は予想よりもかなり少なく、多くの高齢者の方々がスマホを利用してこの事業に参加していました
- ・先ほど草野委員がおっしゃっていた通り、この事業がスマホを利用するようになって面倒になったという意見も出ていたので、そういった部分も含めて改善の余地があると感じていますが、思った以上に高齢者の方々がスマホを使いこなしていると思われます

【草野 委員】

- ・デジタル機器を導入する前と後で、事業への参加者数は増えたのか減ったのか

【柿本 保健福祉部長】

- ・デジタル機器の導入したことで参加者が若干増加いたしました
- ・30代、40代の参加者が増えており、若いころから健康に気を付けていただくという事業の目的を果たしていると言えますが、その一方でデジタル機器を導入したことで事業への参加が面倒だと感じるようになった高齢者の方もいるので、そういった部分は中々難しいなと感じているところです

【小山内 会長】

介護者の集う会に関する項目の追加等についてはいかがでしょうか

【高橋 介護保険係長】

- ・ニーズ調査については認定を持っていない方と在宅の要支援者を対象としており、重度障がいや要介護に関する質問項目は掲載されておりません
- ・男性がそういった会に参加しにくい理由等については、「問5 地域での活動について」にて男女問わずある程度網羅することができると考えております
- ・調査の中で課題が見えてくれば、必要に応じて仕組みづくり等を行っていくことになるかと思えます

【久保 委員】

- ・草野委員の意見はすごく大切だと思うので、調査票の最後にある自由回答の欄に回答例を記載して、この項目を活用するのはどうか

【高橋 介護保険係長】

- ・第7期、第8期の計画策定の際に実施した調査に記載されていた意見を参考に回答例を記載したいと思います

【小山内 会長】

ニーズ調査について、他にご意見、ご質問が無いようですので、次に進みたいと思います。

それでは、在宅介護実態調査について、これは全国統一調査であり国から示された統一の調査項目ではありますが、このことについてご質問、ご意見等ございませんか。

【草野 委員】

- ・先ほど確認した介護者が集う場に関する質問項目について、こちらの調査票にはそういった項目が無いように思えるが、質問項目を追加することはできないのか

【高橋 介護保険係長】

- ・国の統一調査であるため、項目を追加することができません

【福永 委員】

- ・その他の自由意見のところに追記することはできないのか

【草野 委員】

- ・普段の個別ケア会議でも介護者が集う場がないということが、よく課題、意見として出てくる
- ・そういった意見が出た際には参加者から共感の意見がたくさん出るものの、何かしてあげられないかと私自身も思いつつそこからの対策がおらず、もどかしさを感じている

【小山内 会長】

- ・私も普段、訪問リハビリの面談をしているが、面談の中で同席している家族が一生懸命話をしてくれることがあり、誰かに話を聞いてほしいのだと感ずることがある
- ・介護者が集まって話をする場があればいいなと思っている
- ・老健施設にいるようになって、こういった事をつくづく感じるようになった

【福永 委員】

- ・今回実施する調査は在宅の要介護（支援）者を対象としているものだが、介護事業所を対象とした実態調査もぜひ実施してほしい
- ・実際に介護の現場に携わっている方々からそういった意見を吸い上げることが大切だと思う

【小玉 委員】

- ・富良野市にも「在宅介護者を支える会」という会があり、介護について相談したい方や悩みを聞いてほしい方がいれば、この会に受け入れてもらってそういった機会を作ればと思う

【草野 委員】

- ・そういった会と介護者をどうやってつなげればいいのか、我々自身も学んでいかなければならないと思う

【小山内 会長】

- ・訪問リハビリは市内で様々な事業所が実施しており、サービスを提供する中で介護者から色々な話を聞く機会がある
- ・逆に言えば、そういった機会がなければ聞けない意見も多くあると思う
- ・そういった機会を多く持つことでより良い形にしていくことができると思うので、この調査票に記載することは難しいと思うが、別の形ででもそうしていければと思う

【柿本 保健福祉部長】

- ・今回お諮りしている調査は、計画の策定や市の施策の一助となるもので、委員の皆様から頂いたご意見を反映したものにしたいと思っておりますが、あまり質問項目が多いと回答する方の負担も増えてしまい回答率にも影響が出てきてしまうため、我々としても必要最低限の質問項目での調査としたいと考えております
- ・しかしながら、委員の皆様のご意見も調査結果と同様に非常に大切なものであることから、最大限計画に反映させていただきたいと考えており、今後も会議を開催してまいり

ますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【小山内 会長】

このほか、ご意見、ご質問等ございますか。

【福永 委員】

- ・ぜひとも事業所の実態調査をお願いしたい

【高橋 介護保険係長】

- ・事業所の調査については、計画の策定作業の一環として実施いたします

【篠嶋 委員】

- ・今日配られた資料では調査票はA4用紙に2アップで印刷されているが、実際に配布する際はどのようなサイズで印刷するのか
- ・文字が小さかったりすると、調査票を始めてみた際の印象が悪く回収率に影響が出るかもしれない

【高橋 介護保険係長】

- ・実際に配布する際はA4片面で1ページ分印刷するので、今日の資料よりも大きな文字で印刷されます

【篠嶋 委員】

- ・私は民生委員として今日の会議に出席しており、今回の調査で見込まれている回収率を少しでも上げられるように可能な限り協力していきたいと思っている

【柿本 保健福祉部長】

- ・やはり1ポイントでも回収率が上がることに越したことはないので、フォントやサイズ、文章の簡略化など、ぎりぎりまで改善していきたいと思います

【高橋 介護保険係長】

- ・参考としてですが、前回の第8期計画策定時のニーズ調査における回答率は、1,500件中945件の回答で63%、また、在宅介護実態調査では303件中166件の回答で約54.8%の回答率となっております

【小山内 会長】

- ・実際、この回答率は他のアンケートや調査と比べてどうなのか

【柿本 保健福祉部長】

- ・良いと言えます

【小山内 会長】

このほか、ご意見、ご質問等ございますか。

【久保 委員】

- ・高齢者がこの調査票の全文を理解して回答できるかどうかについては正直なところ厳しいような気がする
- ・家族と協力して回答してもいいと記載されてはいるが、家族と同居していない高齢者や身寄りのいない高齢者もいる
- ・例えば、民生委員やケアマネジャーに協力を得たり、相談するように案内する一文を追記したりできないか

【高橋 介護保険係長】

- ・民生委員やケアマネジャー、町内会長の方々に協力してもらって回答することは差し支えないが、市のほうから民生委員等の方々に発送先等を伝えることは難しいと思われる
- ・ただ、家族の方に限らず知友人に協力してもらって回答しても問題ないと分かるような文章に変更することは可能です

【柿本 保健福祉部長】

- ・調査項目には個人情報も含まれているので、市のほうから民生委員等の方々に相談するよう記載することは難しい
- ・あくまで回答者が個人的な信頼関係で知友人の協力を得るという形になるので、例えば「ご家族やご協力いただける方がいる場合は本人に代わって～」というような文言となるかなと思われます
- ・民生委員やケアマネジャーの方々に市からご負担を願うことは難しいと考えております

【小山内 会長】

このほか、ご意見、ご質問等ございますか。

【草野 委員】

- ・先ほどの健康マイレージ事業の説明で、スマホと万歩計の両方を事業に使えるようにしたところ利用者が増加し、しかも高齢者のスマホ使用率が高かったとのことなので、調査も紙媒体とスマホのどちらでも回答できる形にできないか
- ・スマホを使えるようになれば簡単な操作で休み休み回答できるようになるので、回答率も上がるのではないだろうか
- ・今回の計画には間に合わないと思うが、今後の検討課題としてほしい

【高橋 介護保険係長】

- ・今すぐに導入するということは難しいが、今後の検討課題とさせていただきます

【小山内 会長】

このほか、ご意見、ご質問等ございますか。

【有澤 委員】

- ・特に80歳以上の独居高齢者で回りに相談相手もない場合、調査の回答ができないケースもあるかと思うが、そういったケースにはどのように対応するつもりなのか

【高橋 介護保険係長】

- ・そういったケースにどう対応するのか検討しておりませんでした
- ・ニーズ調査については、介護認定を持っていない方と要支援の認定を持っている方を対象としているので、一定程度ご自身のみで回答していただけるものと想定しております
- ・在宅介護実態調査については、要介護者を対象とした調査票（A票）と介護者を対象とした調査票（B票）がありますので、一緒に住んでいない場合でもB票を回答するにあたって家に来てもらった際にA票の回答も手伝ってもらおうといった対応もできるのか

など考えております

【有澤 委員】

- ・こういった調査では80歳、90歳の方々が非常に重要な存在になってくる
- ・そういった高齢の方々の中には、この調査票を見ただけで回答する気力をなくす方も多くいると思う
- ・特に独居の方はそういったケースが多いと思われ、その点が心配である
- ・そういったの方々には民生委員の方の協力を得るといった方法がとれないか

【高橋 介護保険係長】

- ・ご家族や周りの知友人の方々に相談して回答することは可能ですが、やはり個人情報の関係もあるので、市から発送先を伝えて協力をお願いをすることは難しいと考えます

【有澤 委員】

- ・私は町内会長もやらせていただいているが、数年前に町内の高齢者から今回のような調査の内容が理解しきれないと相談を受けたことがあり、市内にそういった高齢者がどれくらいいるのか分からないが、心配である

【小山内 会長】

- ・このアンケートは無作為抽出で発送するので、発送先を誰かに伝えて協力を依頼することはやはり難しい
- ・あくまで回答する本人から協力してほしいと知友人に依頼する形でないと個人情報の観点からも難しいと考える

【福永 委員】

- ・そもそもニーズ調査を実施する手法としてアンケートを配る方法しかないのかという話になってくると思う
- ・日ごろからサロンや認知症カフェ、訪問リハビリなどの様々な機会が高齢者の方の声を拾い上げていく仕組みづくりをすべきだと思う
- ・高齢者が集まる場に、そういった声を聞いたら市に報告してもらえるようお願いすればいいのではないか

【久保 委員】

- ・前回の回答率でいえば、40%近い方が回答していないということは何らかの理由があると思う
- ・例えば、但し書きにアンケートに回答していただけない場合は自由記載欄にその理由を書いてもらうような一文を添えるのはどうか
- ・その理由を集めることで回答率を上げることにつながると思う

【小山内 会長】

- ・アンケートは一つの手法として実施していただきつつ、あわせてより多くの声を拾い上げるための手法も検討していただければと思います

【柿本 保健福祉部長】

- ・富良野市の高齢者の方々には調査に積極的にご協力いただき、60%を超える回答率となっており、非常にありがたく思っております
- ・有澤委員のご意見に対しましては、調査票に記載してある高齢者福祉課の連絡先に「ご不明点等がございましたらご連絡ください」といった一文を追加したいと考えております
- ・また、連絡先や一文についても目につきやすいようフォントを大きくする等の対応をし

たいと考えております

5. その他

【小山内 会長】

それでは、最後に事務局から何か連絡事項等ありますか。

【高橋 介護保険係長】

本日様々のご意見等をいただき、いくつか調査票の文言を変更いたしますが、軽微な修正となりますので、修正後の調査票については郵送という形で委員の皆様にお知らせしたいと思います。

今回を持ちまして令和4年度の地域ケア推進会議を終了とし、令和5年度に入りましたら計画の策定に向けた会議を開催したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

6. 閉 会（16時50分）